



古小だより

令和4年11月25日(金)

第9号

古平町立古平小学校

主体的に考える力を重視し

校長 三浦卓也

新型コロナウイルスの全国・全道的な感染拡大は収まらず、本校でも11月に入り学校閉鎖の措置を取りました。その間、オンラインにて学習を進めてまいりましたが、今後、長期休業の短縮や行事の変更、日課の工夫等により更なる学習保障を行ってまいります。保護者の皆様には、当初の予定が変更となる部分もあり大変ご迷惑をおかけいたしますが何卒ご容赦願いたく存じます。

さて、以前、元コンサドーレ札幌の左サイドバックで現在はスポーツコメンテータとして活躍されている大森健作さんの講演を拝聴する機会がありました。その中で、サッカー教室に招かれ子どもに指導する際に「『次、どうすればいいですか?』という質問がものすごく多く、自分で判断し動くということの大切さが十分教えられていないのでは。」と危惧されていたこと、また、指導者が細かく指示を出しその通りにできない時に「『今はパスだろ!』などと叱責するようなやり方が自ら考えようとする意識や意欲の芽を摘んでいる。」と訴えていたことが今でも強く心に残っております。

このような指導法の弊害は、学校教育においても当てはまる部分があり、教師の発問に対し児童がその都度返答する一問一答形式に終始するような授業の進め方がそれに当たります。そのやり方では、クイズに答えるような知識は増えるかもしれませんが、子どもが進んで判断したり考えたりしようとする態度は十分育ちません。

今、学校では、予測困難な時代の中で、自ら答えを見出していこうと積極的にチャレンジする子どもの育成が強く求められています。ですから、授業スタイルも、前述のようないわゆる「教え込み型」から、子ども同士で協働して課題を作ったり、他者との意見交換を通して自分の考えを広げたりしながら主体的に学ぶ「課題解決型」へと転換していく必要があります。本校でも積極的に授業改善に取り組んでおります。

ご家庭でも、お子様が主体的に取り組む「家庭学習～『自学ノート』」の習慣化を少しずつサポートいただければ幸いです。本校では、玄関ホールに各学年の児童が取り組んだ手本となる「自学ノート」を掲示しております。ご来校の際は是非参照ください。

